



食事の工夫で障害改善も

【42】

会津医療
センターの

教えて、
先生!

Q 直腸がん摘出手術を受けました。手術後の排便についてアドバイスをお願いします。(会津若松市 男性 72歳 K・Mさん)

A 手術は、「くるま」の修理とは違い、悪い部分を取り除くだけで、新しい部品と取り換えるわけではありません。肛門

直腸がん摘出手術後の排便は

温存手術といっても、肛門が残るだけで、摘出による解剖学的構造の変化と神経の切除のために排便・排尿・性功能などに障害が起こります。

排便障害は、①便をためる直腸の容量が減るため、1回の排便量が減り、回数が増える②肛門括約筋の一部が切除されるため、便漏れが生じる③排便に關与する神経の切除により、排便する力が低下し、残便を来すなどです。排便障害は1日の排便回数が多くなる場合と2〜3日ごとに排便が多くなる場合がありますが、回数や便漏れは、8割の方が1〜2年で緩やかに改善します。

食事と排便の関連を確認することも重要です。食物繊維を多く取ることや乳製品を避けることで排便障害が改善する場合もあります。スッキリするまで排便しようとして、トイレから出られなくなる方もいます。

治療は薬や骨盤底筋の体操などです。施設は限られますが、肛門内圧を測りながら、括約筋を絞めるトレーニングや仙骨神経刺激療法というペースメーカーのような装置を埋め込む治療もあります。最終的には人工肛門を造設する場合もあります。

(大腸肛門外科主任部長 遠藤俊吾)